

# 腓体尾部切除術を受けられる

様へ

説明医師

説明看護師(外来)

看護師(病棟)

月日	月 日	月 日	月 日
経過	入院日	当日術前	当日術後
目標	○心身ともに安定した状態で手術を受けられる ○治療に対する不安を表出できる		○術後合併症を起こさない(出血、深部静脈血栓症、肺炎、縫合不全、感染、腸閉塞) ○合併症予防のためリハビリ(歩行訓練、呼吸訓練)がおこなえる
検査	身長、体重測定 採血	体重測定	採血 レントゲン撮影
食事	夕食後絶食、21時以後絶飲食 経口補水液は、麻酔科の指示で服用	絶飲食	朝より水分少量開始
処置・観察	朝食は 自宅で	リストバンドを装着 します(退院日まで)  弾性ストッキングの サイズを測定し、 お渡しします  臍処置します (シャワー前)  必要時、糖尿病・ 内分泌科の診察が あります	手術後以下の挿入物、 装着物があります ・酸素マスク ・サンプチューブ ・心電図モニター ・点滴の管 ・背中中のチューブ(鎮痛剤) ・創部のチューブ(鎮痛剤) ・創部の管(ドレーン) ・尿道カテーテル ・フットポンプ(血栓予防)
点滴・内服	持参薬、お薬手帳 を看護師にお渡し ください  以下を服用します ・昼 500ml の下剤 ・眠前 下剤	時間になれば、 看護師が手術室に ご案内します	状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります
行動・リハビリ	シャワー浴洗髪を します	手術室で点滴を開始 します(手術が午後 の場合は、病棟で点 滴を開始します)	以下の点滴を行います ・持続点滴 ・抗菌薬 ・鎮痛剤 ・胃薬
説明・指導	以下の手術準備を します ・手術着に着替え ・弾性ストッキング装着 ・入れ歯、アクセサリ、 時計等の取り外し	術後、集中治療室に ベッドで入室します	午前中 全身清拭し、手術着から パジャマに着替えます
	制限ありません リハビリ科の診察があります	翌朝まで ベッド上安静	付き添いのもと、リハビリ を開始します
	医師・麻酔科医より(外来又は入院時) ・治療計画について ・手術について ・麻酔について 病棟・手術室・集中治療室看護師より ・入院生活について(パスシートを使用) ・手術について ・集中治療室について 薬剤師より ・持参薬確認 ・使用薬剤について	医師より ・手術結果について  看護師より ・術後の注意点について ・安静について ・下肢運動について ・痛み止めの使用方法に ついて	

\* 入院に際して、この用紙を必ずお持ちください

\* 入院時に栄養状態を評価して栄養管理計画を立てます。定期的に栄養状態の再評価を行い計画を見直します。

\* この表はおよその経過をお知らせしたものです。種々の都合により、予定通りではないこともあります。

月日	月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日
経過	術後 2 日目	術後 3～4 日目	術後 5～9 日目	術後 10 日目～退院日
目標	○術後合併症を起こさない（出血、深部静脈血栓症、肺炎、縫合不全、感染、腸閉塞） ○合併症予防のためリハビリ（歩行訓練、呼吸訓練）がおこなえる			
検査	体重測定	 3 日目・5 日目・7 日目・必要時 採血 レントゲン撮影		
食事	朝より流動食開始	3 日目 朝より五分粥食 4 日目 朝より全粥食	5 日目 朝より常食	退院日は、朝食のみ
	  	  	  	  
処置・観察	以下の挿入物があります ・点滴の管 → 点滴が不要となれば抜去します ・背中チューブ（鎮痛剤） → 術後 2～3 日で抜去します ・創部の管（ドレーン） → 術後 4～5 日で抜去します ・尿道カテーテル → 術後 2～3 日で抜去します   創部を観察、処置を行います			退院時にリストバンドを外します
	 状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります			
点滴・内服	 以下の点滴を行います ・持続点滴 ・鎮痛剤 ・胃薬			
	 状況に合わせて、全身清拭、洗髪、足浴を行います   尿道カテーテル抜去後はトイレで排尿できます			 創部の治癒状況に合わせてシャワー浴を再開します （週 3 回、病棟毎で日が異なります）
行動・リハビリ	 リハビリを継続します （安静度やリハビリの進行には個人差があります）			 （退院日） 朝食後退院です
				 医師より ・退院後の治療計画、療養上の留意点について  看護師より ・退院後の療養生活について （退院療養計画書をお渡しします）  療法士より ・退院に向けて
説明・指導				

